2026「原発と人権」全国研究・市民交流集会 in ふくしま

p・r・o・g・r・a・m

9月26日（土）（1日目）

■ 開会式（13:00 ～ 13:30）

・実行委員会を代表しての挨拶：礒野 弥生（東京経済大学名誉教授、日本環境会議）
・福島大学を代表しての挨拶：佐野 孝治（福島大学学長）

■ 第1部：「福島原発事故から15年ー多様な被害をめぐる実情と課題」（13:30 ～ 16:00）

●担　当：日本環境会議、福島原発被害弁護団
この第1部では、「福島原発事故から15年」を振り返るなかで、この間における多様な被害の実情と課題をめぐって、参加者の皆さんと一緒に改めて考える場としたい。

①「浪江町津島地区の原発被害と訴訟の概要」
・今野 秀則（ふるさとを返せ！ 津島原発訴訟原告団長）
・白井　劍（弁護士。ふるさとを返せ！ 津島原発訴訟弁護団事務局長）
「故郷をきれいにして返せ」と、除染要求を掲げる津島訴訟。10月には仙台高裁判決を控え、津島地区の被害と、訴訟と運動の到達を紹介します。

②「福島原子力参加から15年 …誰の子どもも被ばくさせない―被ばく防護と『避難の権利』」
・森松 明希子（原発賠償関西訴訟原告団代表）
子どもを守りたい思いは多くの保護者に共通しています。被ばくさせないための避難の権利が、必ずしも十分実現していない状況。とりわけ区域外避難者に深刻です。いまだ実現しない実態を見つめましょう。

③「住民の健康被害はゼロか？　甲状腺がん裁判原告の訴え」
・井戸 謙一（弁護士。甲状腺がん裁判弁護団長）＊原告のビデオメッセージも予定
住民の健康被害が出ないことは福島の人々の願いです。他方、出なかったことにすれば、それは原発推進勢力にとって大変な好都合です。甲状腺がんに罹患した若者7名が東京電力を相手取り、裁判を闘っています。目の前の現実をリアルに見つめましょう。

④「PTSD被害」長野訴訟弁護団からの報告
・加部 歩人（弁護士。福島原発被害弁護団）
強制避難区域からの避難に伴い、重大な精神的障害を負った事例を争う裁判を担当中。裁判での実情を報告し、今も残る被害を紹介します。

☆質疑応答

■ 休　憩（16:00 ～ 16:15）＊15分間

■ 第2部：「廃炉と復興」（16:15 ～ 18:45）

●担　当：ふくしま現地実行委員会
●司　会：中井 勝巳（福島大学元学長）

①「東電第一原発の廃炉問題を考える」
・伊東 達也（原発問題住民運動全国連絡センター）
廃炉完了「2051年」は不可能／デブリ以外にも放射性廃棄物処分問題がある／原子力学会は「数百年」との報告書／廃炉完了と復旧・復興問題は分けて考えることが必要ではないか／100年後を視野に入れた対応が必要。

②「汚染水発生と海洋放出問題 - その課題」
・柴崎 直明（福島大学名誉教授）
汚染水問題の背景／地質・地下水を軽視した汚染水対策／増え続ける汚染水／海洋放出量と汚染水発生量／海洋放出はいつまで続くのか／トリチウム濃度の変化／他の放射性核種の放出／新たに発生する汚染水の問題／抜本的な地下水流入削減対策を。